イスラエル・パレスチナ問題 集中講座 DAY 3 2024/02/17(土) あがたの森文化会館会議室 1 [hybrid 開催]

パレスチナ問題にひそむ偽善と非法の暴力——公正な世界を築きなおすには

本日考えようとする問題の「現局面」を **4 年前 2000 年 7 月**に予測していた板垣の議論(信州イスラーム世界勉強会e-定例会第6弾記事)を、以下 URL から講座の前・後に読んでみて欲しい。

“コロナ禍”に幻惑されて“世界の危機”忘れていないか？

アブナイ指導者のアブナイ駆け込み対策のアブナイ見込み外れ

—7月の日々を過ごすイスラエルのネタニヤフ首相—

https://www.shinshu-islam.com/2000716.pdf

Session① 10：00～11：45

ナクバ 捉え方〔1936~39 パレスチナ・アラブ反乱弾圧〕1948 デイル・ヤーシーン村虐殺／住民追放の拡大

シオニスト国家出現後の時期区分

(a) 1949~67 (パレスチナ戦争~六日戦争) 国際的操縦：「**アラブ・イスラエル紛争**」

ヨルダン(グラブ・パシャ J. B. Glubb 率いるアラブ軍団 1939~56) ／バグダード条約機構 METO(英・トルコ・イラン・イラク・パキスタン)

アラブ民族主義(バアス主義・ナセリズム)・非同盟主義・アラブ社会主義

この間の注目点：「**冷戦**」状況／1956 スエズ戦争(米ソの警告、英仏の凋落はじまる) ／1962 アルジェリア独立(1954 結成の FLN の武装闘争、大統領ド・ゴールの決断) ／1964 アラブ首脳会議がパレスチナ解放機構 PLO 結成を決定(パレスチナ人外交官[国連でシリア代表・サウジアラビア大使]でアルゼンチンのペロニスモ右派をシオニズム対抗勢力と評価するアフマド・シュケイリーを執行委員会議長に据える) ／1965/1/1 上記の動きに怒るパレスチナ青年たちがパレスチナ解放の武装闘争を開始、これを記念日とする.

(b) 1969~91（PLO 変質~マドリード中東和平会議） 国際的操縦：「**中東和平**」

ディアスポラ・パレスチナ人の政治的・軍事的結集としての PLO

1982 レバノン戦争[イスラエルのレバノン侵攻]を境に、活動の上昇期と下降期

(1968 カラーメの戦い、ヤーセル・アラファート PLO 議長、ヨルダン王制の「黒い 9 月」弾圧をかわしてベイルートを拠点とし、ファタハと PFLP とを中心に武装闘争を展開[ハイジャック諸事件・1972 リッダ空港襲撃とミュンヘン・オリンピック選手村占拠人質事件など]の一方、国連はパレスチナ人の自決権尊重を明確にし 1984 アラファートの国連総会演説／1985「シオニズムは人種主義」の国連総会決議／が示すような国際的支持を拡げた.しかし、1975 レバノン内戦が始まり、82 レバノン戦争(サブラ・シャティーラ虐殺も)により PLO はチュニジアのトゥーニスに追われ、武装闘争は沈滞、1988 ファタハ軍事部門を率いたハリール・アルワズィールもイスラエルのトゥーニス奇襲部隊により殺害される).

PLO に起死回生をもたらした 1987 末イスラエル占領地民衆のインティファーダ

(抗議する女性も投石する子どもも含む住民決起は PLO の民族統一指導部のもと、40 年ないし 20 年間の占領権力の抑圧に対する破裂が、ガザからヨルダン西岸・東エルサレムの全域に引火.

1988 パレスチナ民族評議会は、この燎原の火の地域でパレスチナ国家の独立を宣言.これまでの過程で、イスラエルは民族統一指導部に対する対抗馬としてハマースを蔭で支援、分裂を策す）.

イスラエル政府は、リッダ空港事件以降、〔独立前後の自らのテロリスト・イメージを振り払い〕「〈国際テロ〉との闘い」を強調、パレスチナ民衆の抵抗をテロリズムと規定、殊に欧州各地で PLO の外交官を標的とし暗殺する「神の怒り」作戦を展開するが、1970 年代半ば、建国をつうじ政権の中枢を占め続けてきた社会主義シオニズムの労働党に代わり改訂シオニズム系列のリクード(連合)が優位に立つ. 旧テロリストのメナヘム・ベギンやイツハク・シャミールが首相の座につく、イスラエル政治の潮流の変化が始まる.

土地と平和の交換 Land for Peace（1967 国連安保理決議 242 に基き、六日戦争の原状回復＝イスラエルの占領地からの撤退＝アラブ諸国のイスラエル承認＝国家生存権の保障）というアラブ諸国 vs. イスラエルの関係が重要なのか？郷土を追われ家族が離散して難民化したパレスチナ人 vs.イスラエルの関係はどうなるのか？(1973 末、米ソ主導のジュネーヴ中東和平会議／1978 米国主導のキャンプ・デイヴィッド合意〔1979 エジプト・イスラエル平和条約、1982 シナイ半島返還へ〕／湾岸危機・戦争でイラク支持の PLO 孤立.

イスラエルは〔1948 英国委任統治終了に伴う主権国家非存在、1949 停戦の境界線は国境と異なるという理由で「占領地」概念認めず、「係争地」または「イスラエル管理地」だと主張、入植活動は国際法違反に当たらず、としてパレスチナ人の土地を奪い 1967 以降、入植活動を促進. これを咎める動きは安保理で米国の拒否権で葬られる.

この間の注目点：**「冷戦」は緊張緩和**へ(米ドル危機、中ソ対立、NPT 発効、SALT 1 戦略兵器制限交渉、INF 中距離核戦力全廃条約調印など)／1973~74 石油危機／イラン-イスラーム革命／ソ連アフガニスタン侵攻／イラク・イラン戦争／レバノン戦争／イスラーム主義運動／1986 モルデハイ・バヌヌがイスラエル核に関し内部告発／ベルリンの壁崩壊／東欧社会主義体制の解体／湾岸危機・戦争／ソ連解体・イスラエルへの移民の波／…

アラファートへの忠告　ブルーノ・クライスキー(1911~90. オーストリア社会党.首相在任 1970~83) 反シオニズム ゴルダ・メイル、サイモン・ヴィーゼンタール

板垣　落語「三方一両損」 左官屋金太郎・大工吉五郎・大岡越前守

(c) 1993~現在（オスロ合意~ガザ戦争）　国際的操縦：**二国家解決方式か／民族浄化か／パレスチナ民衆の第 1 次インティファーダを目撃し、政権が巡ってきた労働党のイツハク・ラビン首相**は、PLO との厳しい抗戦の経歴とは裏腹に、相互承認の上での秘密交渉により「パレスチナ暫定自治に関する原則宣言」へと進んだ。エルサレム問題・難民帰還権問題・入植活動の処理問題という「和解」上の基本原則に関わる事柄を棚上げした「合意」の帰趨は明らかだった. ガザとエリコから漸進的に自治区を**拡大する**技術主義が行き詰まる前に 1995 和平に反対の青年イガール・アミルによ

るラビン暗殺が起き、シモン・ペレスやエフード・バラクの奔走も水の泡、変形した合意は「自治政府」のイスラエル統治「下請け」化として破綻していく.

リクードのベンヤミン・ネタニヤフは「パレスチナ国家」のそもそも反対で合意の破壊に精出したが、リクードを割って出るアリエル・シャロンは2000エルサレムの聖地(アル-ハラムッシャリーフ)を武装部隊とともに強行入域し、第2次インティファーダを挑発、首相となり対テロ戦争としてパレスチナ「自治政府」の施設建物を徹底的に破壊、大統領アラファートをラーマッラーで包囲軟禁する.地下水豊富な場所はイスラエル側に取り込む形でパレスチナ人居住地を分断する隔離壁建設を促進して封じ込める一方、2005ガザ地帯から入植者を完全撤退させた.2006年初脳卒中で意識を失い倒れたので、彼の偏頗な二国家構想の実態は不明に終わった.

ラビンそしてシャロンという政敵の死後を継ぐネタニヤフの変則的長期政権が、異常な選挙の繰り返しと夫妻の汚職をめぐる裁判とを縫い合わす形で断続している.2022年暮の史上未曽有の超右派政権と言われる第6次ネタニヤフ政権成立は、2018制定の「ユダヤ民族の国民国家基本法」と並び広く市民から顰蹙を買っている法制改革の強行を目指す中、西岸での入植者たちの「アラブは殺せ」運動やアル-アクサー・マスジド襲撃事件とも繋がるガザ封鎖17年の圧力釜の破裂が、23年10月7日ついに起きた.待ち構えたような戦争宣言、そして激烈な空爆と地上戦、病院・学校襲撃、墓荒らしの「月面化」・「ジェノサイド」となる。選択肢はジェノサイドしかないかのように。

Session②　13：00～14：30

今、私たちが見ていることの意味づけ

１）世界のユダヤ人の反応／国家の破滅的事態／イスラエルだけの話か？

２）キリスト教の歴史的責任

3)「ホロコースト後」言説／「戦後」言説／の解体

４)「破裂」の意味

５)「国連」の未來／「国家主権」の考え方

６）戦争の世界で、日本社会はどのようになっていけばよいか

Session③　14：45～16：30

自由に開いた意見の開陳と交錯する議論の地平の見渡し

このたびの集中講座で考えたこと／分かったこと／分からなくなったこと／これから考えてみたいこと／

https://muslimworld.naganoblog.jp/　　2023 / 10 / 17

ペーター・コーヘン「終わることのないパレスチナ紛争の根因：それをどう正すか」

板垣雄三「コーヘン提案をどう読むか」